

都市公共空間構成要素としての公共交通施設の デザイン・プロセスに関する研究

A Study on The Design Process of Public Traffic Facilities as Urban Interior Elements

ペリー 史子 (PERRY Fumiko)

公共交通に関わる様々な交通施設、例えば停留所、公共交通車両、軌道等は、単にそれぞれ単体ではなく、都市空間の中で一定の間隔に基づいて、あるいは連続的に配置されている。これらは、都市公共空間、すなわちアーバン・インテリアを構成する要素の1つであり、市民の足として都市生活に直接関わってくる交通ネットワークを支える施設という側面はもちろんであるが、視界に現れてくるそれらの姿を、アーバン・ランドスケープ、都市景観の視点から検討していくことがより重要になってきていると考えられる。

そこで、本研究では、都市公共交通施設のデザインが決定されていく要因やそのデザイン決定に影響を及ぼす要因を探るための基礎的研究として、今までの現地調査、及び新たな現地調査によって収集した現地の写真、パンフレット、地図資料、各都市のホームページ上の公開されている情報から、デザイン・プロセスに関わる事柄を抽出・分類し、分析した。なお、公共交通の中でも新しい都市の顔、新しい都市公共交通として着目されている次世代型トラム(LRT)を取り上げ、LRT導入の進んでいるヨーロッパ諸都市を研究対象都市とした。

それらの分析結果より、都市公共空間を構成する要素として公共交通施設のデザイン、及びそのデザイン・プロセスに関して、次のような特徴が明らかになった。

- ・公共交通は、都市マスタープランと大きく関わり、都市の将来像に基づいて計画されており、これが公共交通施設のデザインにも大きく影響を及ぼしている。
- ・LRT車体(外観・内装)や停留所のシェルターのデザインコンセプトには、都市の独自性や地域の特徴、街並みの色彩との調和という内容が多く挙げられている。
- ・LRTの車両には斬新なデザインも多く見られるのであるが、これらのデザイン決定方法の1つとして、市民投票による決定という手法もあげられる。
- ・都市整備計画の中で決められている色調やマテリアルが公共交通施設のデザインにも応用されている。

今後は、担当部署でのヒヤリングにおいて具体的な事柄を明らかにし、デザイン・プロセスと都市マスタープラン等との関係を探ることが重要になると考えられる。

なお、この研究成果は、Proceedings of 13th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management “Spatial Analysis and Map-Based Visualization of New Tram Line Projects”(共著、審査付き)、及び、「第47回土木計画学研究・講演集(2013)」に掲載されている。